NPO法人 長崎史談会

ちれ

さ内呼は時し任

(う免

ち除

まさ

れ町ば

とっし

呼たて

ば町地

れは租

る

を

なにれ内地

55か対た町租

を代秀

、、 た 命 鍋 六 内 地 。 、 島 年

長直〇

崎茂五

地長一八

地域八

のを



第13号

2023年9月1日発行 長崎学レポート 編集委員会

〒850-0861 長崎市江戸町5-8 第5一ノ瀬中央橋ビル

2023年度 第1回公開講座 2023年4月15日 · 第2回公開講座 2023年6月17日

> 長 第第 崎 0) 部回 囬 **哈発表要旨** 是崎学公開# 数とその 変

遷

座

てど島町多造町長 町成や崎元 、さ大開亀内 地崎にた崎ど戸興れ村港二町 はが町善た町に年と 急造 速成樺 にさ島下以六な 発れ町町後かい七 も町島一 展る しな五築博が原の

不轄を伴を同たに八 町免こ たこ免官吉天詳領発天攻一が知○さい、町、 除のと町の除には正。と布連略五(行)らっ長な江 し し年 とし は天 产正 てイバ 五人数で、年で 当時の町を上次とした。 長崎を上次・1 追放と できません しょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう しょう しょう はんしょう しょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう とり はんしょう はんしょく はんしん はんしょく はんしんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はん 進ズー れ会五 数直令 州

組一かに五

1 「寛永長崎港図

あ代 あか九三町三数 ん寛つの長、 つ町九かは年は内 は二三か町、は十(一六六三)ルは不詳であるだれ可も外町もが た、)町、当二 ち永た初崎大 。めの町 が町は一元禄 に町の は数分 は 五内 六は割 六 ` か江 町戸 で時 で六六四内文町

始一 ま年 0) 前 四 古も町町でえ整復 にが六年 る奉 川っとも東ば備興幕な罹六筑そと納こ、一町改五そ息、しす町一そ

い外(成内 成和 元 る 町 1 な さ 町 に 屋 七 外 。 は) おれ を 始 町) 町 は こりる材酒。 ・りる材酒慶 囲が木屋 長二 "、前町 む よそな うのど袋^件(の形の町一 `五 造も造

赤で一た取ま、のは では寛 ```永 色 分内長 け町崎 さは港 れ白図 で置

> 。ず町と両外六 ゚゚ゕ つをで町 の踊除も遊町 三町外毎女の組と、年町内 にし残奉丸 分てつ納山出 け二たと・島 ら一六い寄町 れか三う合は

た町かこの除六

翁

軒

では

納か一

福

吵

この会は個人会員と法人会員の皆様により運営されています

谷

商

0

de



+ 八 親 和 銀

Ŧ IJ I ۴

行

の後2 一六は大川町、は雪四三三き町 町、) は、」 の 四 二 二 いの 寛文町 に の 三 つ に を つ 猫争大長をから かにルビック れ復火崎増ら で興かというけ、一分 いしら屏し七 るた一風たか踊もる 。町町しな 長〇二 崎年写 とをくど

け

行

始寛に

なかに○ら丸長

2 寛文 人長崎 図



一納そで増 ズとれ一加 になも巡に る本か紙鍛今新町大石 の紙鍛本本 、工灰こつ屋冶博石長つ $\widehat{\boldsymbol{b}}$ ら屋冶博し 新分をらうとあ町屋多く紙石け二にに)つが町町今屋 あ町屋多く紙町町れく町屋多灰崎く本 灰たつ寛なをたで、、石町鍛籠のが下 成にいる。 でする。 です。 でする。 です。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。

か町なかに山崎こま文一現わ つがる町出・はのり一回在れ た変まと島寄いよ現にでる。 夏ょこ 更でな町合総う在 更でな町合総うにしている。 の上海の上海の の上海にこれ町、合の上海の るの明わ両七文二ハ七 こ数治せ町か一て こ
数
治
せ
可
か
一
て
こ
こ
っ
っ
と
七
時
た
、
町
二
い
こ
れ
七
た は七代八さに年るには年

と本 (I h

、ら町本町町町の町 と本本町は

多町、とは "、屋 れでと新今町 と興離守そ

らに町さよ 工町三き

り毎かよ

年らっこ

く一七ての

ん一年踊一

ちかで町四

が町一がか

スの巡六町

`年の

ム奉

今中冶 下紺屋今

の <u>`</u> 順のご

町興島く と善町町

はいた うして うしての

命全いし谷六 う町わ前行七 にもしに石六

ど呼善れがの勿じて ちうん町る任命論た と期に ての本、を従長 「もと」と「ほんにったが、備後にったが、備後にったが、備後に当時の長崎である。 一局の一個に の で 後 は

は

長

歴史文

化

博

物

収

でを あ区 つ別 たし。ち た 0) か 長 11 間



細見図

しかし筆者は、「長崎細見図」(写3)のように 「ほん」というのは本通り、 裏通りの「ほん」のこと、 裏通りであるが、「裏」というのは本通りであるが、「裏」とは呼ばずに本側は本 に、五島町に、その反対側は本 に、五島町と本(ほん) 正とで後(うしろ)というに、 に、五島町も港すなわちに、 でがる。 に、五島町も港すなわちに、 たで消(うら)五島町と考え

謎

開

晚寄 第第 年贈 の写 グ真 部回 バラバーがから見えた 発 長 表要旨

田

歴たラニのの のの | 名がユS あ物い に 1 収 ロル 史 ° バ枚老う寄寄交ク誉発 | Nこる館たべ属ッこが市ン・二令 にもイすシれ寄ヘビブ月和は 寄ののるユら贈一アリ 贈で個ブ・はさ五博テカ年め れ匿宅ンロ々たの館ッダニ た名にトン、。ガトシのこ さ、人レコ元れ枚物ィナ もで眠ウビブ ラりユロー え、・イニ の同つッアリ で博てド州テ 乾長コヤし

文こ | は若ち贈贈流ガ園信スSの 化れ関ト男 さにのフ長さをや資 博ら連し女一れ至中ニブれ通地料 このマが三たっで氏ラ、じ元は 館枚写ス写枚ガた、とイグての、 やは真・るはラ。長同アラ広W博 `でB写外ス 崎博ンバくE物 崎長あ・真国乾 市物・1存B館 大崎っグで人板 へ館バ園在ニの

て学 真 こな属 9 いでい図 ては写書 こ真館 察のだに し二っ保 た枚た存 $^{\circ}$ Ø * 写 n

た富。

士

見

町

0

新

居

に

居

住

L

が

´ ラバ**ご** 1 来 日 か B 再

自し「会ャ久() 邸、このトニパ

購番名年 のラ館中町 入地義(内広バ付華(東ラ で麻布区室 一九○三)に建て 一九○三)に建て 一九○三)に建て 一九○三)に建て 一九○三)に建て 一九○三)に建て 一九○三)に建て 一九○三)に建て 一九○三)に建て 富に、で一て国港市に「 て八士富明あ四ら大区区つ富

写 1 グラバ 「富士見町グラバ 邸

た友建確のやで

長妻で二

しグ収 てぽ分広二 たラ蔵長いいかい階写 とバさ崎る木る庭建1 。枠。がてで こしれ歴 ろ邸て史 の一見のは のい文 部階渡住 寄写る化 屋右せ宅石 贈真富博 は端るが垣 突のこ建の き白とち上 写と士物 真比見館 出っが、 は較町に

グ明の去す届

性築這れ建 が途うて物 高中植い全 いの物る体 と様のこに 推子状と足 測で態と場しあか、が たるら石設 。可、垣置 能建にさ

い番見三治っ〇れ使南富い士 る地町郎三た〇た館麻士**て見** 。を五の六。坪グ別布見 町

(写1部

ン拡

町を座の と四 グ見っ日グ友 ラ比て本ラ人寄 バベい人バた贈 1、るが1ち写 邸写 。軒の一 真 の3様下ほ グ 玄は々のか 関富な石、 ラ バ で士資段四 撮見料に人

こ人築認周テあ写 とた途で辺しる2 がち中きにブがは 分をのるはル か招段 。四が軒1 るき階グ人置下の 入でラのかに部 れ、バ人れべ分 て既一物 いにはがそチ大

長治神菱営 はま納 、戸本業写 た村グ三社部真 両写章ラ菱鑛副左 脇3吉バ建山長か にでて ・ 築部高ら、 新長田、 犬味る槙長原政三 の深 。峰白田久菱 `本 鉱石鎭 石い 像こ 山直治三社

写 3 グラバー園 「グラバーと友人たち」

あり造 る号れ物本 船さこ 1た館人グさ 彼所らと8写収はラれ ら史にで 真蔵 名 2 アの長しも 館三前3ル名崎との バ簿歴共と か菱の菱が7^バ簿歴共とっ関協重判) (が史に思 た係力工明を資添文写わ 者に長し調料付化るれ

しがとたがに狛が

て建もがは保犬あい築富、つ管はる

とた町にして在で

が頃グよていグあ

分にラりいるラる

かはバ少な。バ。

っ存しなか来しこ

た在邸くっ歴園の

たさ士写きさ これ見真りれ現と

がが料 でよ崎たべ番さ博日る。

い築富

かを仲一回分流的は東菱 1 る過間がのかがに知京 資ごを東寄っあどらでテ 料し呼京贈てつのれ暮 とてびの写いたよてら、

献Bブニマ内参 ・ B・ ・ B・ ・ B・ ネグ治 へで見つ ーと横 ーと横 書ラ建 ○二ガつ 冒房バの 〕洋 と航し浜八か現 長ニ 始商 が路て間七つ代 崎 T 末り 、たに 推でいに

部回 発長 表 崎 学公開 座

イ国二川 ッ立人原 セ民の慶 ル族一賀 学生筆 コレ 博物上図上 宮宮 物館所芸物館所芸 クショ 前蔵フ デン

支を 登 で で で で で で で で で で さ さ さ さ さ ら か さ ら か さ ら か に い か ら ら か に い よ る か と に よ る か と に よ る か と に よ る か に い か は に い は に い は に い は に い は に い は に い は に い は に い は に い は に い は い

、のなこり額本れは

。よいが石額本

田

届かも得

草宮い用も

入参る人し 0 がた

をを 描抱 にき宮参 参 図 のり1 でをご あすは える、夫男 る 婦児

あった。

لح

で図

軽 なっところ で を ところ で で で で で で が っ で で で か っ で で か っ で で か っ で で か っ で で か っ で で か っ で で か っ で か っ で で で か っ で で か っ で で で か っ きる け いつことなった。 なたらる煙親 下が草が 手得げ、入持



写 2 「宮参図 1 部分)]

た面中をこ日 もの身忘れ傘そ のなをれににの がか説たつぶ煙 に明かいら草 、て下入 い煙す つ草る風筆がが の入た呂者っど間をめ敷はたう に描に包、のし かい画の何かて

の刻

はれ居

は体

奉

納

一神れっ るが四社

社る

が、「はなるが、」と刻まれてある。

Ł

な神はまる

りが額と

だ名

けが

物所は

は国

長立

崎 民

歴 族

史 学

文博

化物

西プ

収

でで

も御べあ

異手ルる様水トが

が、附

通書

。普のるま流

あるが

帯が細い

あく着

。 るし

で

写

1

宮参図

は、、のなこり観平ないでは、で使でいの付束のを二のよいが石額本の うてなで ないく あで石 考る間 よ違 つ傘 たに のぶ

なに対現え い煙参にてうっ な草り長いにて い入二崎るな日 のは写県 でぶるが ある) で 蔵 がはす つ日る



写 3 一宮参り (部分)」

なる日がつ

で本いな傘ぶ日

水以 れたとないることに の上 記 や鳥 高居に いるど、私 ならに るらに るらに るらに るらに 附た がな私下ににこよ描いたがは額のう 、ちっ煙東文に か れ考日て草が字御

はと師と筆作複賀 てえ本い入な (書なのたは者だ数ひこいら人るがいというちょう) は、日本人で 行は、その複にはありといった。 とりの間作い とりの制作に は、その複には がらといわれる。 といっとには がらといわれる。 い合ち いかと考えて、 日本人ではなって、その絵質 ので、その絵質 のは、その複数の 作つ でち絵師が製く慶

ス両ド八冶

ナ町九

法人会員紹 介

でら

は下

とが

長 長崎バスグルー 崎 自 動 車 株 式会 プ社

崎 市 新 地 町 Ξ 番 七



長崎自動 車株式会社本

西では、 長崎自動車は、 昭和 一一年四月(一九三六)上 野喜左衛門の出資により、 長崎バス) に改称した で、同年八月、社名を長 地に建設したバス)に改称した 運行当初の路線は、昭和四一年(一 本社は、昭和四一年(一 大一キロ、東面はフォー であった。 であった。 の路線は、 昭和四一年(一 大川ビルへ移転。 であった。 であった。 であった。 の路線は、 昭和四一年(一 大川ビルへ移転。 であった。 のの路線は、 昭和四一年(一 大川ビルへ移転。 のの路線は、 昭和四一年(一 大川ビルへ移転。 のの路線は、 昭和四一年(一 大川ビルへ移転。 のの路線は、 昭和 のの路線は、 昭和 のの路線は、 昭和 ののようにより、 日 ののより、 日 ののようにより、 日 ののようにより、 日 ののより、 日 のいり、 日 のい

長崎後動長野



設立当時の車両(フォード車)

百す支ととらに し岐道わ本コ商跡えやに を共有全 えし人な密当てに事れでウ素 こし人な密当てに事る一ヶ が、る着グいわ業る一ヶ施 社、るたの大番」 Ħ 指使繁のを 道 をい運い業和周 業 てざス 観 を等走駅営長 蘭年宿光 7 のし路 い胸貢し企「 て、経 ると 、崎複商を泊振 役た線 るに献を業人さ済 開多鉄い日コ合館迎業興 割公を